明治初期の小新聞の漢字用字法

岡本純子

はじめに

明治初期の新聞には、知識階層を対象とした漢文体の大新聞とそれ以外の人々を主たる対象とした書き下し文体の小新聞との二種があった。ここでは小新聞の一つである『讀賣新聞』に使われた漢字が、ルビつきではあったが、平易なものであったのかどうかを明らかにすることを目的とする。なお、漢字の難易に関する規準は、森岡健二先生の『漢字の層別』(註1)によることとする。

一

漢字は中国から日本に伝えられて以来、日本語を書き表わすのに必要不可欠なものであり、また、日本語の中で独得の変化をしていったものである。その中でも明治期には、明治維新以来、新しい文物の急激な到来と共に新しい概念等の表現に新しい語が必要となり、比較的自由な造語力を持つ漢字は多くの漢字で構成される語を造っていった。しかし、多く造られた語も、特殊な使われ方をした語も、人々の取捨選択により次第にその数が限られてゆく。ここで扱う明治十年頃はその過渡期と言え、前代の戯作調の漢字の使い方、新しい漢語の登場、漢語の氾濫など、自由に漢字を使い、書き表わしていった時代である。

この時期に生まれた新聞に大新聞と小新聞との二種があった。大新聞についての調査結果は、すでに『明治初期の新聞の用語』(註2)として示されている。そこで、小新聞の用字用語の実態を見ることとする。

小新聞では、かな表記、総ルビ、談話体の文章の採用、絵を入れるなど、読者に読みやすいように種々の工夫がなされたが、実際に使われた語、語の構成要素としての文字は「女子どもむけ」(註3)のものとしてやさしいものであったろうか。

資料には『讀賣新聞』を選んだ。それは小新聞として比較的早い時期、明治七年の創刊で、一般民衆、知識の低い人々に読みやすいように、談話体の文章の採用、総ルビにするなどの工夫がなされている。創立者、編集者が読者をはっきりと意識し、読者啓蒙という意図を持って始めている。(註4) そのために、漢字、語の使い方に、何か規準があったのではないかと考えられ、資料に選んだ。

この調査の対象は『讀賣新聞』の明治十年一月一日から十二月三十一日までの一年間の本紙における本文と認められる部分に現れた漢字の総体である。準備調査によって『現代雑誌五十種の用字用語』(註5)のβ単位を規準にして、延べ語数が約六十四万語であると推定された。そのうち、一万五千語のカードを採集することとして、一年分の四十三分の一の約八日分のカードをとることを始めた。この調査は約一万五千語の標本から、そこに用いられた漢字を全て抜き出し、資料全体の漢字の使用情況を推定する。

なお、標本の延べ語数は一六九三六語、その構成要素である漢字は異なり一八〇二字であった。

二・一

先ず、『漢字の層別』の分類法によって、標本の一八〇二字を分けてみることにする。『漢字の層別』では、漢字の使われる実績によって第一類から第八類までに分けてある。類に付された数が大きいほど、使われる度合は低くしてある。各類別に現れた文字数と、『漢字の層別』の中でのそれぞれの文字数との比較の結果は次の通りである。なお、『漢字の層別』における文字数に対する標本に現れた文字数の割合を百分率で示す。

層別	標本		
第一類	二八九	二九九	九七・〇%
第二類	三三三	三五九	九二・八%
第三類	六五〇	一〇一九	六三・二%
第四類	一六六	三五一	四七・三%
第五類	九九	三二一	三〇・八%
第六類	一〇二	四七九	二一・三%
第七類	五八	四一二	一四・〇%
第八類	一六	二三四	六・八%
四群(註6)	一一	一六〇	

『漢字の層別』に選ばれなかった文字　七九

一類・二類と、類に付けられた数が増すに従って標本に現れた割合の減ってゆくのを見ると、森岡先生の規準を採る限り、あまり特殊な、又は、むずかしい漢字をあまり使ってはいなかったと言えそうである。

次に、各類の漢字の一八〇二字に対する割合を見、『漢字の層別』における〈基本層〉（第一・二・三・類）、〈中間層〉（第四・五類）、〈特殊層〉（第六・七・八類）のどの位置に属する文字が多いのかを見る。なお、基本層の漢字とは、日本語にとって欠くべからざる漢字であり、特殊層の漢字は、使用範囲が非常に狭い漢字、また、中間層の漢字は、どちらの層に近い存在であるか迷う漢字ということである。

基本層	第一類	一五・六％	七〇・二％（四八・三％）
	第二類	一八・五％	
	第三類	三六・一％	
中間層	第四類	九・二％	一四・七％（一九・三％）
	第五類	五・五％	
特殊層	第六類	五・七％	九・八％（三二・四％）
	第七類	三・二％	
	第八類	〇・九％	

下段の括弧内の数字は『漢字の層別』中での比率であるが、標本での結果と比較してみると、標本では、その割合が非常に偏って現れていることがわかる。また、基本層における第三類までの漢字が七〇・二％と非常に多くを占めていることがわかる。『漢字の層別』における基本層の漢字の意味づけに従えば、非常に基本的な漢字が多く使われていたと言えよう。

二・二

次に、漢字の持つ読みによる分類をしてみることにする。一群は音訓流通の漢字、二群は字音専用の漢字、三群は字訓専用の漢字、四群はすでに日本語の表記には用いられなくなった漢字である。なお、標本には『漢字の層別』には選ばれなかった漢字があるがそれらはその他とした。

	標本	層別
一群	六八・六％	五五・六％
二群	一九・三％	三三・一％
三群	七・二％	一一・三％
四群	〇・六％	
その他（註7）	四・四％	

『漢字の層別』での結果に比べると、一群の音訓併用の漢字の率が高く、また、標本に現れた割合も他の群に比べて高い。逆に、二群の字音専用の漢字の率は低くなっている。このことは、漢字の訓が日本語において持つ意味を示していると考えられる。訓のある漢字の割合は標本においては、一群と三群とを合わせて七十六パーセントとなるが、それらは文字と意味とが密接に結びつい

て日本語を表わしてゆく道具となっている。このことは、外来語である漢字が日本語としての訓を持つという独得の発展をしてから今日までずっと受け継がれていることであり、この標本に現れた文字の多くが同じことを顕著に示していると言えよう。また、意味と結びついている文字はそれ自身がわかりやすさをも示していると考えられる。『漢字の層別』では、一群、三群を合わせて六十七パーセントであるが、これに比べると標本に現れた結果は『讀賣新聞』では文字をあまり知らない読者のために意味のわかりやすい文字を使っていたことを示しているのではないかとも考えられる。しかし、明治初期には字音専用の漢字の使われることが少なく、その後次第に字音専用の漢字の使われる率が上がっていったための差であるとも考えられるので、ここでは推測にとどめる。

二・三

『漢字の層別』には選ばれなかった七十八字の漢字について考えてみたい。先ず、この七十八字は、日本語表記の歴史において、あまり使われることのなかった漢字ではあるが、その時代に限って使われた文字であるのかもしれない。個々の漢字について詳しく調べることはできなかったが、近世中国語と思われるもの、「旻天」などがいくつか見られたので、同時代の大新聞、小説等と同じく明治初期の新しい漢語の影響を受けており、それらのうちで現在まで残ることのなかった語に使われた文字がこの七十八字の中にも含まれていよう。また、そのほかにも今日まで使われ続けることのなかった文字も含まれ、ある意味ではこの七十八字が資料として選んだ明治初期の漢字の特徴を示すものであるのかもしれないが、ここではまだ分らないので一つの課題として考えてゆきたい。

まとめ

標本に現れた漢字のほとんどは『漢字の層別』の基本層（日本語にとって欠くべからざる漢字）に属し、このことから、「女子供むけ」に創設された小新聞の一つである「讀賣新聞」に使われた漢字は、ルビつきではあったが、むずかしいものではなかったと言えよう。また、その漢字のほとんどが訓を持つことから、歴史的な日本語における漢字の流れをくんでいること、また、日本語において漢字が訓を持っていることに対する重要な意味を再確認したと言えよう。

註1　森岡健二『漢字の層別』上智大学国文学論集第七号所収、一

九七四年

註2　国立国語研究所『明治初期の新聞の用語』国立国語研究所報告十五、一九五九年

註3　「この新ぶん紙は女童（こども）のおしへにとて為になる事柄を誰にでも分るやうに書て出す旨趣（つもり）でござりますから耳近い有益（ためになる）ことは文を談話のやうに認めて…」創刊号第二面

註4　註3参照

註5　国立国語研究所『現代雑誌九十種の用語用字』国立国語研究所報告二十一、一九六二年

註6　二・二参照

註7　字例は付表参照

付　表

この付表の体裁は『漢字の層別』の付表に従い、標本に現れた漢字と、現れなかった漢字との別を明らかにする。▼印のあとに続く漢字は標本に現れなかったものである。又、字体の異なるものが標本に現れた時は、字体を変え、例えば變の形で示した。

第一群N

（一類）一七三上下世中九二五人今何便兄内八公六冬前力北十南友口右名品器四國土塲外夜天夫女子字官宮家寺屋山工左年店形後心所手政數文日春時月朝木本村東根橋機横次母水法海火父物理田由男町界百目業真秋種空紙羽者船色花草万西身車軍道都金錢門間風馬魚鳥意面類▼なし

（二類）乳他仲件仏側傷元功千半原味命園坂城士夏夕妹妻姿室宿局岩岸島川己市帯底庭弓志性息体戸歳故敵旅族星景末板林森首民池河油港源燈犬玉番的皮眼失石砂社神私科竹筆節縣耳聲肉背胸腹臺葉薬處血衣裏角證谷足路辺酒里野針銀鏡銕鐵關階雨雪雲駅音頭額顔飯鼻▼底波誠

（三類）丁丈乙井位俵倉傍価兒兵冠刀刃勅勢勲午卵印司后周唐基堤墓墨壁壽夢奥姉姓姫媒孫寶尼尾娘峯布帆帳幣床弟尉影徴情房技掌旗昔晝暇暦札机松柱柳株梅標樹櫻殿毛氏江沖沼泉津浦浪涙湯澤濱灰災炭牛牧獄獣球甲疊皆盲稲穂穴窓端筋管米粉粒紅素紫糸絹緑綿縁繪網罪羊聖肩脚腰芽苗荷英華藏虫蟲袋裸詞謀譯豆跡軒輩輪途邸郡鈴銅鐘磺陰際隣雄雷霧霊露頂舘香骨鬼盧麥麻黄歯齢兎塵枕杉棟汁猿瓦眉旦膝藍藤錦隅隙靴鶴鼠喉旭杖栗猫瓶脇瓜粟蜂鹿境帝財▼剣升宴巣幅幹幻幾序斜杯枝柄桃桑氷汗湖潮独珠環禍笛緒翼腕舟蚕詔邦鉛霜項鶏溝臼蓮虎蛇袖竜李梯爪狼雀

（四類）丙丹値奴婆婿孔暁朱瀬炎畔童繭翁肝髪魂鼓僕傘拳桐烏狐縄蔭輿辰霞鶯鳳龜唄函樋梨竿肴紐餅嶽鋒▼兆喪型柩犠琴癖礎綱脂膚舌菜薪虜街豚鋼雌岳仇叢姑牙糊脊膏誼鞍餌鳩閏湊泡硯麓雁籤

（五類）尿澁粮腸茎鯨巾彦斑旱殻淵燕聾股柏櫛煤蒲樋▼丘塊漆碑

筒酢虞埃妾巌唇嚢宵庵廓嵐扉朴桂橘洞焔痕禽肋舷苑螢襟醤錫闇
伽叉夷屯柏柩楊樟櫓狸猪秤糞舵蟬裳錨頬鷲鷹
（六類）嶺桟梁盃胡鄙酉頸骸魁鱗唖壺杜簾綾翠芥▼弦核盾矛窯郭
銑亥厨咳啞坤屍巷庚旁棉渦濤艶苔藻贋錐鍵閨鞭鼎檀絃鴻冑廐巴
庇梢椿槍爺狗稗蓬蕪薯虹轍
（七類）巳丑垢屁瓢臍芦隈戊▼錘倭寅崖碧祠膠爼岨帷斧曙槌杭梟
杳沫涎滓眸睫碇禿簀糟糠肘腿臀茅襞跣顎餞徽梧灯
（八類）▼朔儡喙寨屎掟梱楔棘瞳瞼箏絆芒藷跛戌靄
N・V
（一類）事指表要病実▼なし
（二類）供代辞総▼なし
（三類）侍嫁尋懐泥▼束鎖
（四類）乾籠阿咽▼零
N・A
（一類）主親▼なし
（二類）幸▼なし
（三類）哀旨薄▼なし
N・CA
（一類）先▼なし
（二類）未縦▼徒
（六類）蓋盖▼なし
第一群　V
（一類）仕休住使來入出分切別助務勝動去参叅反取合商問圖在増
存學定引待得思念急成承拝拾持支教斷書會有止歩歸死求流生産
用申當發知立約終結給老行見言計試話語調讀賣買起転返退送通
進運過開限集願食點割▼交作治造配
（二類）乗亂亡任例停備傳働具餘加勇勞巻告呼因困囲報守害容寄
富写射居張往從忘応戰打投折招収改放救散料曲望果極榮殘殺比
決泣注洗活浴消減滿漁照焼營爭現留畫省破示祭移積笑答築組織
置習考聞肥育至落裁補解記設許認説警變負責費質走述迷追連遊
防降除飛飲養▼係修光化捨敗敬
（三類）付仰企伏伐伸伺似依倒借催傾充免兼凍凝到刷副効募勤励
勧包及受叫召吐向否唱吸吹喜噴埋執堪失奉奏奪奮寐就崩巡差延
建彈彫忌忍怒怠恐悦悔患惠悩慈慕慰慶憂懲懸戀扇抱押拂拔拘振
捕掃授掛探接推揚揮損揺撃操攻敷整施昇晴暮曇替枯染植構欺歌
歴殖沸沿泊泳浮添渡準滞漏潜濟煩熟燃犯狩率異疑疲療登益盗盡
看眠祈秘突窮競納紛絡統経締編縫続缺着聴脱腐臨與舞葬融被裂
覆覺触討訴詠詰誓請謹譽貯賜貸頼購贈越趣踊躍較載輝辨迎迫逃
逆逸遇違遣避録鎮附陳隨隠雇離響顧顕騒驅験驚黙云叱嘉坐憐載
戻撫毀畏稼褒聯捧歎眺逢慮▼伴侮侵促保偽償列刺刻削劣努占含

垂塗圧壊妨宣導屈契干廃弔彩恥恨悟悼惑愁慎慣憤憶憾戒戯拒拓
掘採控提換握掲摘択担拠挙拡斥朽棄沈混測滅滴濁炊煙狂研祝秀
称究紡絶練縮繁繕継罷群耕肯興虐衝衰装託訪誇誤諾謙謝護譲象
貢貫赦赴躍透適遭遷還遺酬酔閉陥隔震革翻飢飾鳴呑奢嫌怯斬溢
漕溺磨酌怨乞憚湧禦
（四類）冒同始怖憩抗携摩浸煑砕蒸襲諭逐鍛鑄障飼飽餓騰闘閲厭
睦羅蒙詣賑蹴塞穿馴弄灌▼奨憎括描捜擦映殴渇湿瞬縛耐茂蓄謡
醸量鑑傭尖剝煎廻凹挿溜牽臥諫讃貪逝亘汲綴遮醒馳驕
（五類）匿咲履崇痴薫僻悶挫挽昂潰矯喋拭濯縊纒貼漂▼培抽措溶
漂澄焦爆粘粧脅阻頒嘲掠播撰煉爛玩繋腫罵羨耽蔑蘇誡轟遜倦凌
惹叩搏挑掻曳煽蔽訊賭
（六類）嘆撮呪擲癒遡捺攀挾啼▼唆慌搾潤糾絞脹跳錬魅佩傲卜屠
萎蕩蝕訛轢聚佇剃喩吃嗜嘯妬悖恃捗捲撚洩涸澱濾曝痺狙祀祓輝
膿萌諳謗譬軋逼靡駈
（七類）截拠棲痩洞呆捻撒浚眩▼倣媚撥穢諦閃劈呻喘嗅嚼堰弛惚
憧抉拱捉掬撓撞擢擱敲斃歪渫滲焙焚甦疼睨羞聳蟠誣謳
（八類）簇翔▼刎嗾擡燻瞠貶踞衒蠢恍

V・A

（二類）直能▼なし
（三類）克則抑更並遂預呉▼偏

V・F

（一類）初▼なし
（三類）爲▼なし

第一群　A

（一類）古圓大安小少平悪新早晩無白等細良赤近速遠重長青高▼
なし
（二類）丸久健危厚多密寒広強快易暗楽正永深浅清熱痛精美舊若
苦貴辛難黒太▼固弱悲豊軽険
（三類）善厳均堅壮奇妙審巧怪惜愚惨懇拙暑慾温潔激濃烈狭珍甘
短確穏篤粋荒虚貧賢遅酷酸鋭雅静麗賤僅遙▼低偉卑宜寡幼微忙
暖朗柔汚淡硬芳詳軟鈍鮮
（四類）乏寂恭窃粗醜稀頑▼涼疎緩姦
（五類）幽迅▼聡淫淋爽蒼脆
（六類）嬉夥▼凄喧堆吝朧痒仄
（七類）▼狡逞懶恙

CA

（一類）全同最然自▼なし
（二類）再各常復必▼なし
（三類）互但予併仮凡剰却専敢既概況漸猶畧諸甚尚須忽頓斯▼即
唯徐態普漫曽頻

（四類）且寧暫殊乃巳悉俄弥殆聊▼偶遍
（五類）▼妄
（六類）▼些
（七類）▼恣
（八類）▼焉

F

（一類）以候共度方様毎程君▼片
（二類）我▼なし
（三類）致彼是某爾▼なし
（四類）吾誰▼なし

P

（一類）可非相▼なし
（三類）不如御▼也
（五類）◀乎哉

E

（三類）玄▼叔孤
（四類）奈▼なし
（五類）撲駕▼瑞牌咫麺
（六類）▼疹麭勾柑
（七類）▼暢嬰晦苛
（八類）▼螟躙

第二群　W

（一群）判医席役徳段気礼義談論部隊地▼職
（二類）京億句史堂客寸尺層州師府座式恩想感材武王禁福章算臣資週郷院陸順▼幕税線術題
（三類）僧劇區季封服案棒毒洋派液漢版獵盆策籍紋罰署胃茶菊藝衆詩課弐賦賞銃陣魔慾辯▼倍像儀刑券剛勘卓域塔壇宅格湾票秒範簡累肺脈脳訓軸党厄蜜塀
（四類）壱班禪藩蘭鉢▼勺棺欄碁稿糖紺膳
（五類）壘胴髄祿塾廟蝶柵▼炉膜菌譜錠閥栓牢罐腺韓檄灸
（六類）寮朕燐鬱蛾賽註▼弧韻覇訃帙椀蠟痔癌罫鋲鑵絽
（七類）埓▼壕秦瓣箔跋杓癪籐
（八類）▼帛舳誄豹痰

D

（一類）信察議達▼令単対
（二類）制卒属検期特號▼律賀
（三類）了俗博吟坊徹征排摂没演獻純製観評講雑毫▼仁介呈嬢模駐領瀕
（四類）墮撤叙督▼喫擬謁歿托諒
（五類）陵▼嘱擁殉

（六類）伍▼按寓

（七類）▼藹

（八類）▼扮扼拉杳

E

（一類）両團婦校状第農

（二類）孝将忠査級翌規閣陽電智▼完

（三類）伯佐侯俳倫典勉厘吉吏員央威婚宇寛展帥廳弊循慢慨拍援

昨曜暴枚條權歳滋猛畜砲符箇簿紀維舎般舶艦衛覧訟識貞貸賃賛

逓迭郎郵銘閑斎隆需騎伊昌輔駄弘疋那沙汰楼債▼佳俊個盤債倹

刊協匹啓囚妃嫡宗帽庶康廊廉廷憲扶批抵敏斤旋旬昭祖欧泰浄爵

盟監租系緊績肖胆臓航視訂診誌豪販貿超距邪釈陛陪陶双俸朋斉

披洲漠蔓顚餐

（四類）僚准剛匠岐巨彰愉栽械汽獲症痘痢祥胎菓該誕賓軌輸秩亭

羅仙卿輯稽▼享儒冊凶創哲圏坑奔妥娯宙峡怪惰斗晶架棋渉濫疫

疾睡稚穀紳紹粛胞膨艇荘薦衡衷裕詐賄遵郊隻壌帖蹟侠凸戚牒誦

阪悠瞭篇臆饗呂倶兇幡拶挨纂聘謬饉駿紊詮遁鹸

（五類）亜墳索蠻膽賦轄錯涯叛敦磐艘迂妓酒屏游獅輦邑娼畢紗薩

莫▼冗剖喚嗣墜墾妊姻娠庸恒款淑燥牲磁窒緯複諮舗溪宏欣洪燭

薨套懼擾昆曹疏窟翰腎趨陋頌頽駁冥孟誅貌兌侈恢摸楷椅濆祐緬

膺賂蹄躬鹵輛迦侶噌恤烹琵禱竟陀艱

（六類）宰硫穫偵胤凱哨挺欝洛烟舘褐讒捷叟噸孵屹恕癩禾萄葡輜

邁馭魯▼抄搬析泌璽硝礁祉繊耗肪賠践逮隷伎劃婢嫉峻嶮慧抹掩

昏昧槽宸毅淳沃欽熔燦碍稜猥琢箋綸綜綬綺縅肆肢腑荊藉讐醇冶

勃楚彙叡佞偕俯佯佻俘傳匡冲几凰刹刺匍匪匁吻嘩嘔坦堡夭妁姆

宥寇猩巓廠弼彎徂徠忿忽悴惧慄慷惶惣愕戮捐撿攘斐斟歇斡旺

晏朦杞楕殲汎沐渙潭濛瀾潑渠涵漑牆牴犢狽玻璃烽痍癈矩矮碩祇

禰稠禀竄竣笥箪紘繡耘耶芬菩蒐蛋裡裔詈誨諜詢詭誹谿贔賁赫躇

躊輻逍逗遼酊酩醵銓隧颶駘魄鵄璧

（七類）丞塡塡寥庖悧揆栖淆滌濶炬炳筑耆芭蕉衙贖烙▼劾嚇塑拷

酪酵釬嬌寵庄把晋梵浩瀉胚腔臘蕃衍訣諧諷贅輓隘饑臂佑仗塹悌

愍攪祚繃郁仔僭允兢吼咀哄哺啖嗇嗟圭埠娑婉峨徊徘徽恪恬悍悚

悛愍慫懃懺戟拐拗掣擅搭撻攬曖梗棍椰椒檎檣氾泄淘灼炸煖熾猜

猾珊玲瑚畿痙痲癇眷艫瞞瞥礙穰緻肛蔬虔蠢袈裟褥訥譚諄諶譴豁

豺蹂蹶軀逕逡遽鄭酋酎醍醐醱銷鎔閤闡闕輩飄驟麾黎

（八類）伶圃幄扈渾礫蹤邂▼倆倖傀僑僥凛刮却匐呱咆咤哮喀喊址

堊墟孜寃峙嶼帑幀幇弋弗彷彿徨忖怏恟慴恫悄悸悽惻愧愴慚慂憔

憬懈懣戍戎戡拿挂挌掉摯憊撈撩撼斂晰柢桎梏榜榴欒毘氈沌沮淪

渺湃湮澎濘瀝瀰炯燎燼猖猩獗獪獰瘴癘皙皚盒睛睹眈瞑矍矜磊祇

秣站籃絢綽絨縷繞羈艙艟艤茶蔗蕭藹蘊蜒蜿袍袢裨襦褫訌諚赭辟

辣艨逅邀邂鍍錚鍮鑠闊闢陞雰颯飭饅饒驀髀魃鵬齟齬齣滔躁

第三群　N

（二類）岡▼なし

（三類）坪畑貝箱芝滝垣堀楠熊袂釘釜鍋頃▼蚊柿棚皿笠

（四類）匁峠芋尻崎檜萩蛙袴駒▼塚姪岬甥辻畠磯肌鴨鰹鯛

（五類）屑榊潟葛藁蟻雛麹▼畝卯戈牡柴樺樽灘牝箸籾粕縞菅茸蝿

諺鵜頁欠（あくび）

（六類）佃埼媛幌橡楓毯疵竪箕篠籔籬茨菱蚤袷豕鍬雉鮎鰻▼串兜

凧咄咎哩噺媼尸柊柚椎楸榎汐渚燧砌磅箒篁舅葦荻蝦蟹裾踵轡轂

釦鋏鋤錆鋸鏖飴鮒鮭鮨鰒鷺磨

（七類）噂囃壜棹槇櫃瘤窪竈笹筵粥▼并匙吋呎嘘嘴塒尨嵩幟枡枠

杵梶栞桁楯椋楢樫橇檻汀浬濠漣甍皺盟砧笞筍筏筧篝箆簪脛肱腋

艀芹蔦莟菰藪褄褌襖襷謎躾鮑鎧鎚霰靨鞄鞘髭鯖鱈鳶黍黛

（八類）藺蛤隼鰐▼倅叺杣梃槻樒櫨瓸瓲瓱砦禊竏竕竓糯絣蕾蘗蛆

衿裃谺鵆鎬靱颪鬩鮫鰊姥粁粍糎肚

V

（三類）刈扱繰届込嘗釣謂▼なし

（四類）儲揃蒔▼卸

（五類）叶捌据揉曰貫這▼冀漬窺葺綻

（六類）喰拵摺濡詫誂摑▼俟傲凭吊吠囀娶孕攫犇薙諂譏跨迸騙齎

（七類）噛晒漉覗▼勾咬啜囁嵌捩淀溯漱漲狎瘠崇稔縋茹繙蹟辷辿

釁縺

（八類）臠▼侘偲凪擢搗犒

A

（五類）▼忝

（六類）尠▼囂

（七類）▼疚酣

（八類）▼腥

CA

（三類）亦▼なし

（四類）又只尤或屢頗▼夙苟

（五類）愈稍▼仍恰茲而

（六類）偖纔豈迚▼啻嘸孰慥扠軈

（八類）▼洽

F

（二類）此▼なし

（三類）之其宛▼惟

（四類）汝於

（五類）儘筈

（六類）▼俺

P

（三類）迄雖▼勿莫

E

（五類）▼七

（六類）熨▼餉嗚砥

（八類）蜘蛛鞋▼蝙蝠

第四群

堺孚宕抔曩盈耻迯艸余躰銕臺▼丕个乍干况亨亮倚倡做冉冱剋劦

勗廿卅厂厥咏咸嗽噫嚮圀墺婬寔寰嵯并廼弉彳徧怕怛恂惇愆愬愾

慄憺懋懿扣摹攜效旆晃暨朿抒桓桿棠棫橿殪殫气汪沁泛淬洵渝渥

澹灑熙爰狃歟瓊甫疆皎矣礪祢祺禧竡竭筭劄澡粱綏繹缶罔耒聿肇

脩膊盲誥謨貲胎賈軫弊迹遉遏遐采錮鑢阜霄靖纇馨駭騁弾驩鬩鷁

鸕麁麑黜舒芟萃萊蔡袤懌彊糺棵雞郗樸予

『漢字の層別』に選ばれなかった漢字

牟懶鯡陋旛檜瞶磐甸鉈飼耙踈畦蹇佺滸鈔荏蠣攪恰杏鬮廨盧旻耄

鑄蝸矇怜觚犁蛹皐銖蓐鯣謐聹躰炎碇癲殄虻魃踵穢馗蜀疝悚蛹熇

覘緜蝨鴛鴦斐頌陪茅稈苫蘆懼董禰托菴于蝕壑捽瓦痳

（昭五十一　日文卒）